



農業支援サービスの 普及に向けた 分析レポート (畜種 -部門別-)

令和5年3月

農林水産省大臣官房統計部統計データ分析支援チーム
(農業支援サービス関連提案ユニット)

農業支援サービスについて

- 農林水産省は、生産現場における人手不足や生産性向上等の課題に対応し、農業者が営農活動の外部委託など様々なサービスを活用することで経営の継続や効率化を図ることができるよう、「農業支援サービス」の定着を促進している。
- 農業支援サービスとは、不特定の農業者等に対して対価を得てサービスを提供することをいい、ドローン散布等の作業受託やデータ分析、農業機械のシェアリング、農業現場への人材供給等がある。
- これまで農林水産省では、農業者等が各種農業支援サービスを比較・選択できる環境の整備に向け、農業支援サービスの概要や対象地域・品目、サービスを利用する際にかかる料金等サービス提供事業者が表示すべき情報等の指針として「農業支援サービス提供者が提供する情報の表示の共通化に関するガイドライン」を策定するなど、普及対策に取り組んできた。

目次

1. 分析の概要

分析の目的や方針、使用したデータ等

2. 利用者グループの特徴

I～IVのグループ別にみた回答者の特徴

3. サービスの特徴

I～IVのグループ別にみたサービス利用状況の特徴

4. アプローチ

ターゲットごとに適したアプローチの考え方

5. まとめ

分析のまとめ



The slide features several large, overlapping geometric shapes in teal, green, and yellow. In the top right, there is a teal triangle pointing down, a green parallelogram, and a yellow diamond. In the bottom left, there is a teal triangle pointing right, a green parallelogram, and a yellow parallelogram. The text is centered on the left side of the slide.

1. 分析の概要

1. 分析の概要

分析の目的

- 畜種(*)の3部門について、農業支援サービスの現在の利用状況や、将来の利用意向を明らかにする。
- 畜種(*)の3部門について、農業支援サービスの普及を進める対策検討のための示唆を得るとともに、農業支援サービスの提供事業者にとっても役に立つ知見を示す。

*畜種とは、令和4年度農業支援サービスに関する意識・意向調査の問1（過去1年間の販売金額が1位の部門）における酪農・肉用牛・その他畜産（養豚や養鶏など）の3部門を指す。

使用したデータ

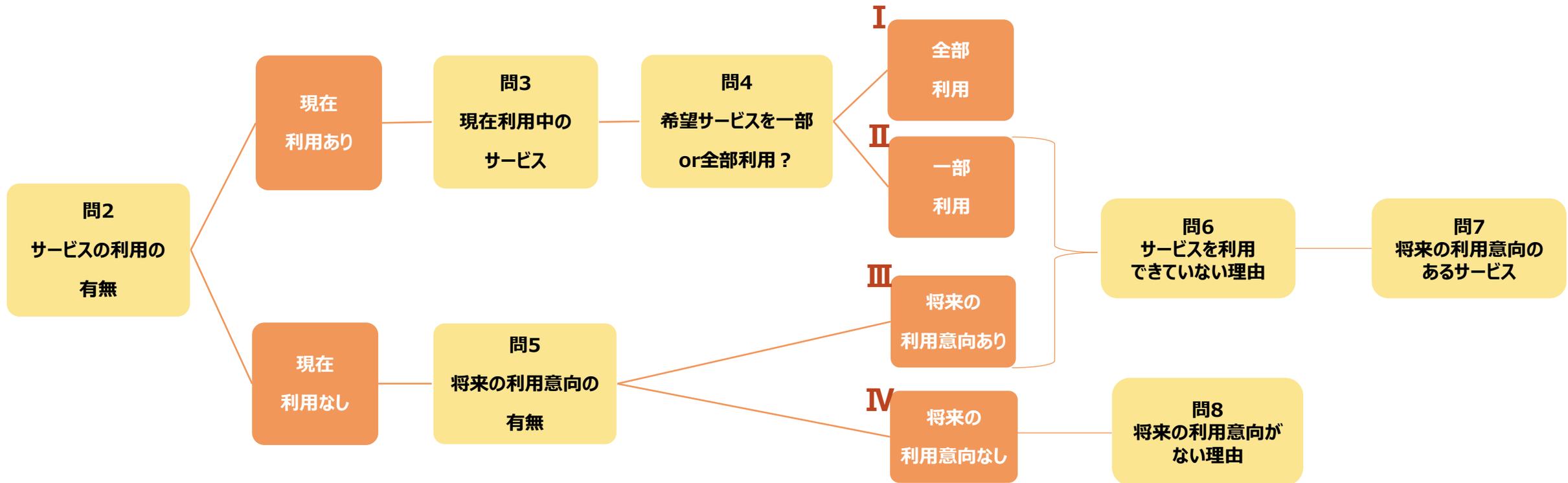
- [令和4年度農業支援サービスに関する意識・意向調査](#)

令和4年8月上旬～9月上旬に実施されたアンケート調査。
2020年農林業センサス結果を基に選ばれた、認定農業者等
がいる個人経営体の世帯主及び団体経営体の代表者である農
業者 10,793 人から回答を得た。

- 2020年農林業センサス農林業経営体調査

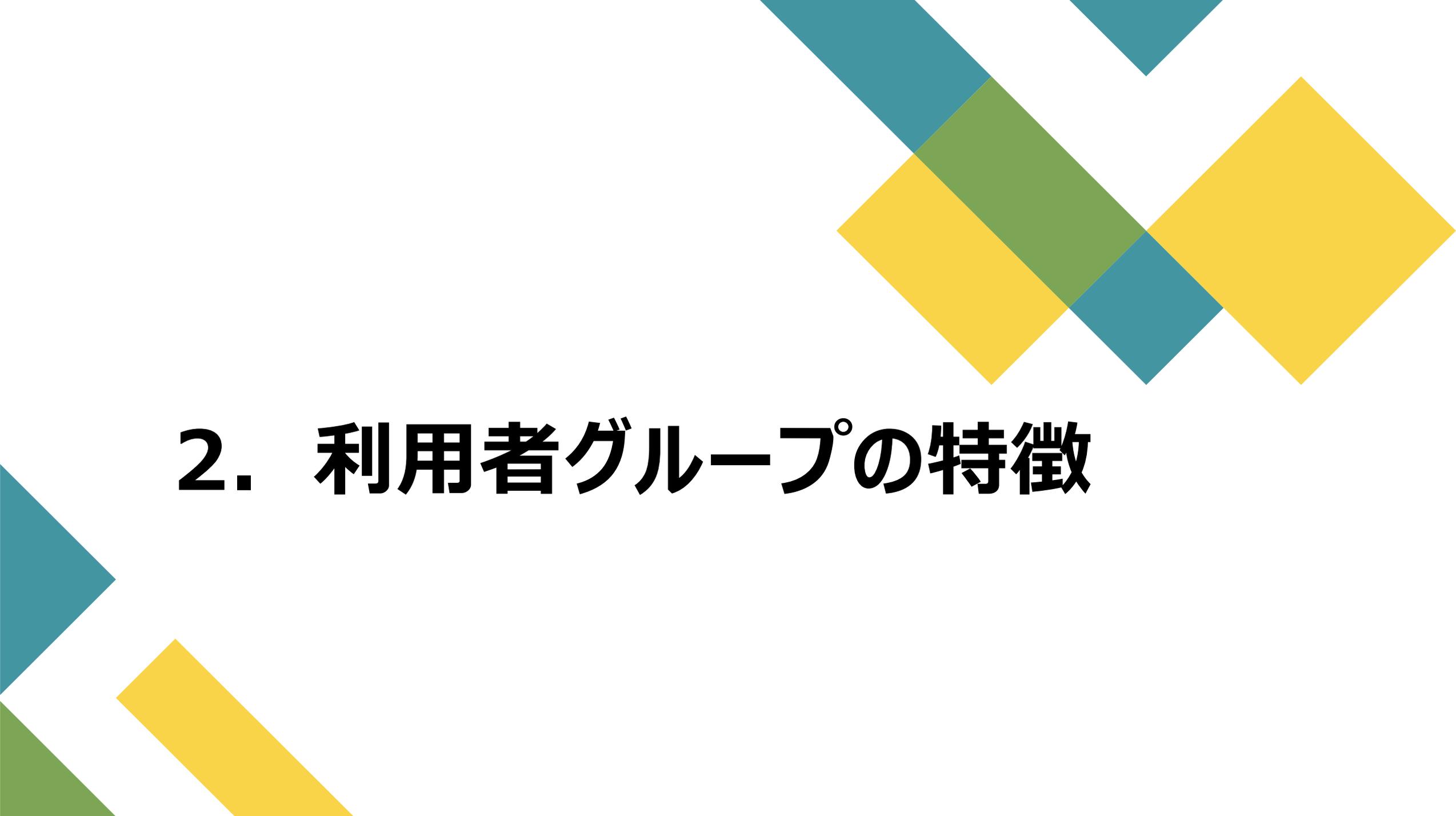
分析方針

- 令和4年度農業支援サービスに関する意識・意向調査の質問項目の概観は以下のとおり（問1は過去1年間の販売金額1位の部門についての質問）。
- 回答状況により回答者を I ～ IV の4グループに分け、グループごとの特徴を明らかにするとともに、サービス普及に向けた対策をそれぞれ考察する。



グループⅠ～Ⅳの位置づけ

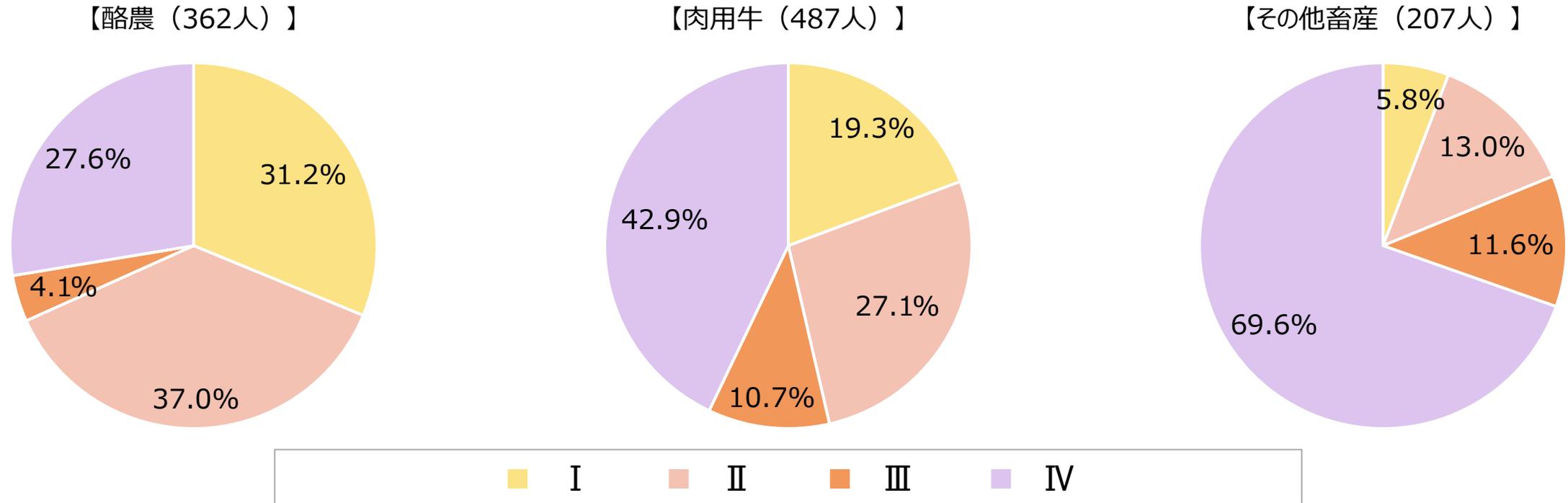
	現在の 利用状況	将来の 利用意向	グループの説明
Ⅰ	○ (全部利用)	— ※回答非対象	現在希望する全ての農業支援サービスを利用していると回答したグループ。
Ⅱ	△ (一部利用)	○	現在希望する一部の農業支援サービスは既に利用しており、かつ、今後も農業支援サービスの利用を希望していると回答したグループ。
Ⅲ	×	○	現在農業支援サービスは利用していないが、今後の農業支援サービスの利用を希望していると回答したグループ。
Ⅳ	×	×	現在農業支援サービスは利用しておらず、今後の農業支援サービスの利用も希望していないと回答したグループ。

The background features several overlapping geometric shapes in teal, green, and yellow. In the top right, there is a teal triangle pointing down, a green parallelogram, and two yellow diamonds. In the bottom left, there is a teal triangle pointing right, a green triangle pointing down, and a yellow parallelogram.

2. 利用者グループの特徴

2.利用者グループの特徴（Ⅰ～Ⅳの構成割合）：畜種部門別

- 畜種の3部門における、Ⅰ～Ⅳの構成割合は下図のとおり。
- 酪農は、グループⅡが最も多く（37.0%）、かつ、グループⅠ・Ⅱで全体の約3分の2を占めている。
- 肉用牛は、グループⅣが最も多い（42.9%）が、その一方でグループⅠ・Ⅱをあわせた割合は約半数を占める（46.4%）。
- その他畜産は、グループⅣが最も多く（69.6%）、グループⅠが最も少ない（5.8%）。



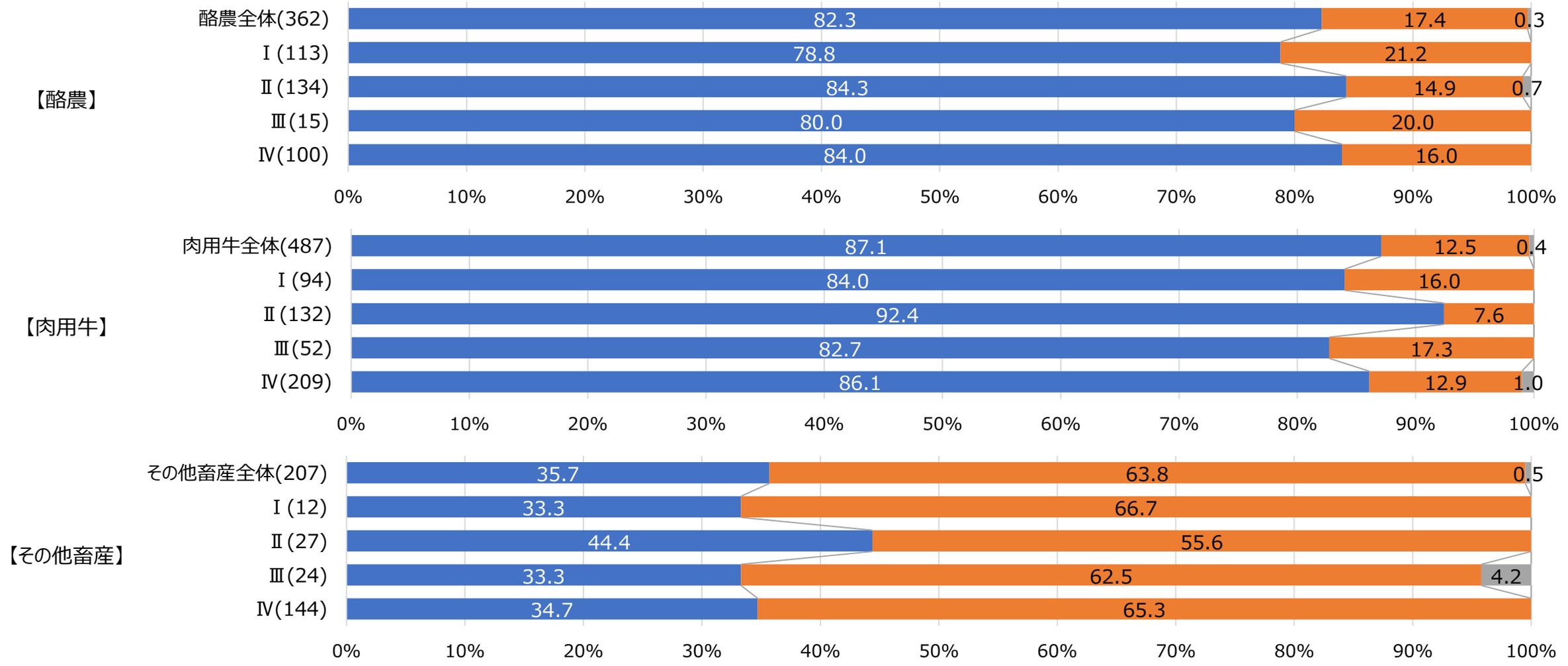
※1 畜種部門別の区分は、「令和4年度農業支援サービスに関する意識・意向調査」の問1の回答状況（酪農・肉用牛・その他畜産（養豚や養鶏など））により区分した（以下同じ）。

2 無回答者を除く（以下同じ。）。

2. 利用者グループの特徴：経営体別

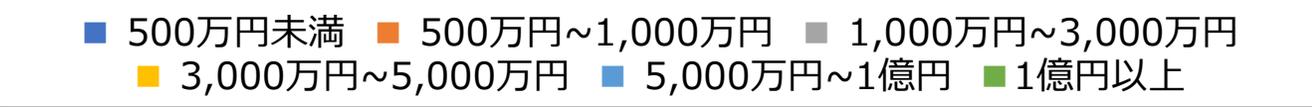


- 畜種の3部門における、グループI～IVごとの経営体別の構成割合は下図のとおり。
- 酪農・肉用牛では、グループI～IVに共通して、個人経営体が7割以上を占めている。
- その他畜産では、グループI～IVに共通して、個人経営体は3～4割程度となっている。

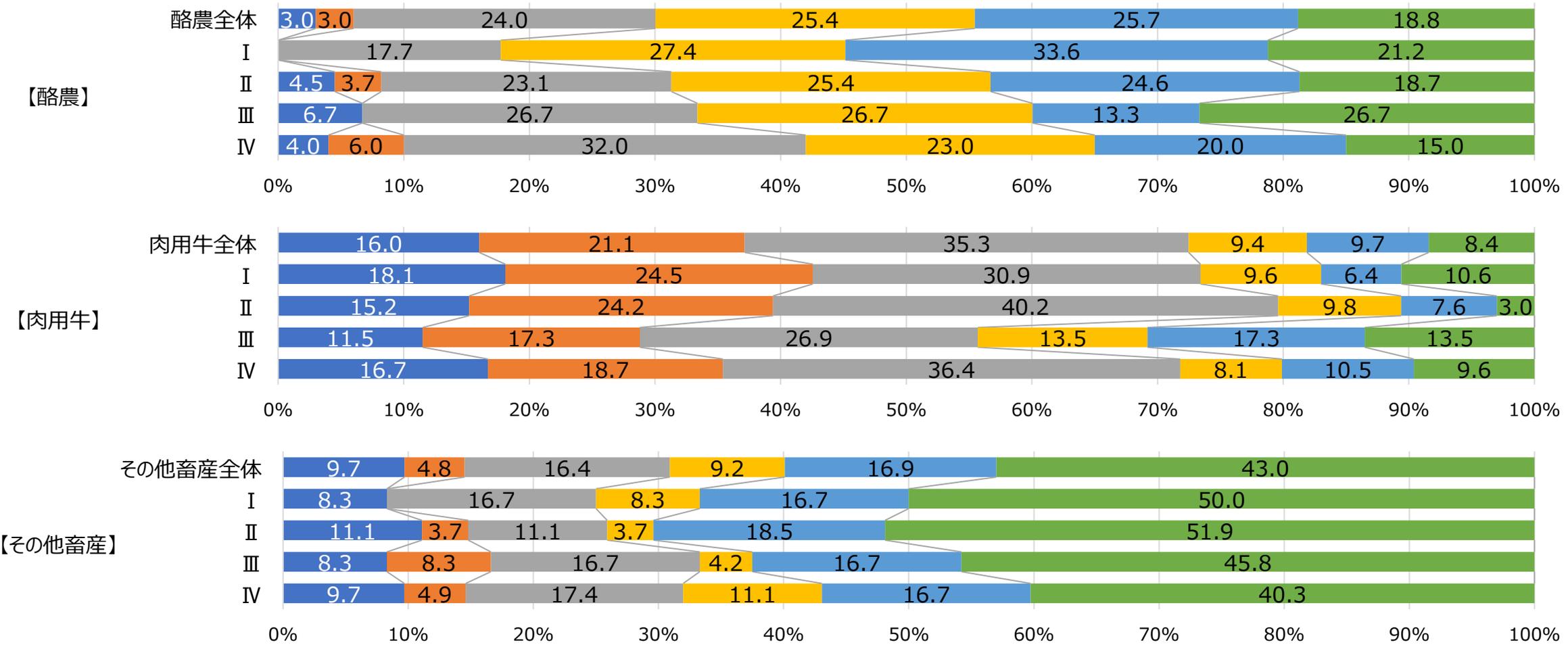


※ () 内の数字は各部門の全体及び I～IVの回答数を示す (p.10～13においては記載を省略)。

2. 利用者グループの特徴：販売金額規模別



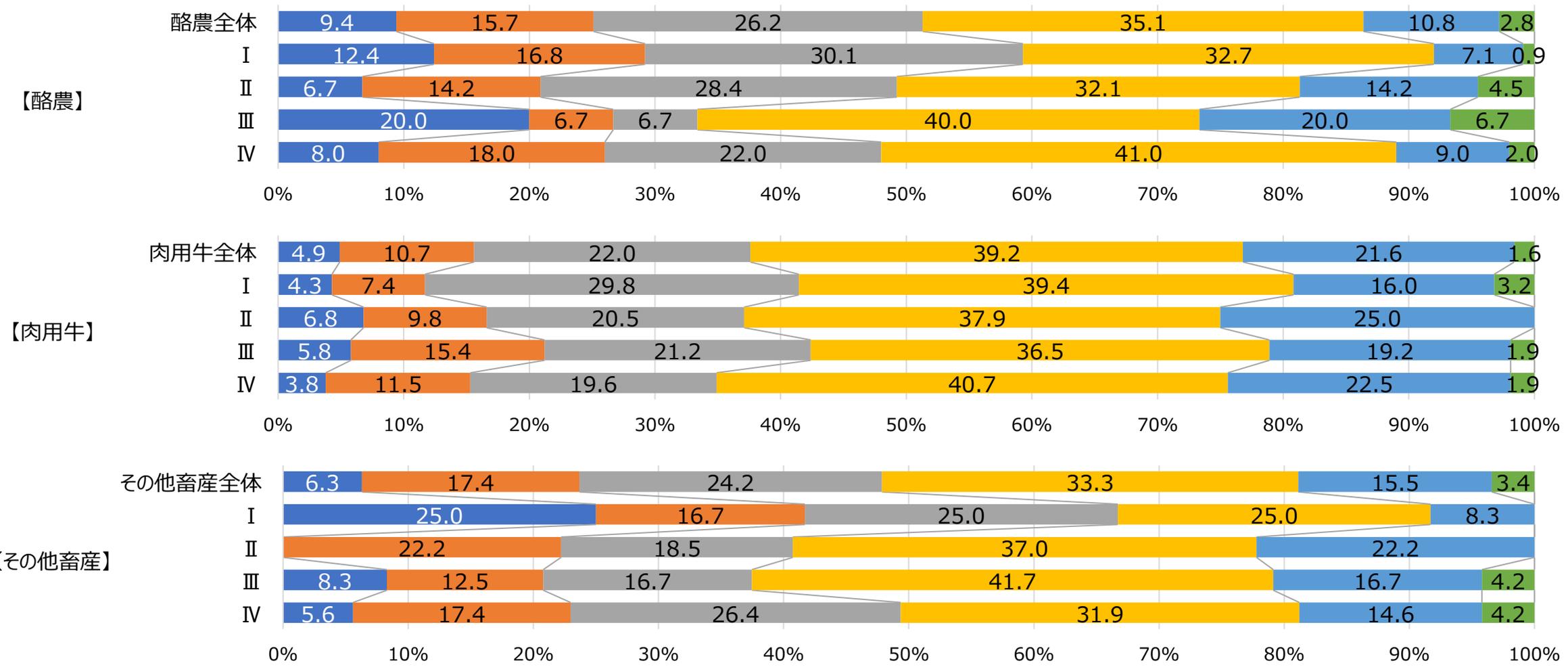
- 畜種の3部門における、グループⅠ～Ⅳごとの販売金額規模別の構成割合は下図のとおり。
- 酪農及びその他畜産において、グループⅠ～Ⅳに共通して、販売金額1,000万円以上の経営体の割合が全体の80～90%以上を占めている一方、肉用牛は60～70%程度にとどまっている。
- 特に1億円以上の経営体については、酪農・肉用牛ではグループⅢが最も多く、その他畜産ではグループⅡが最も多い。



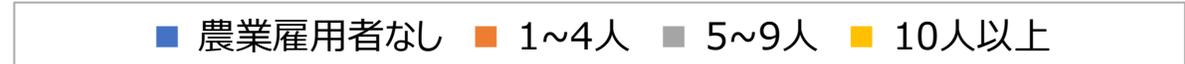
2. 利用者グループの特徴：農業経営主年齢別



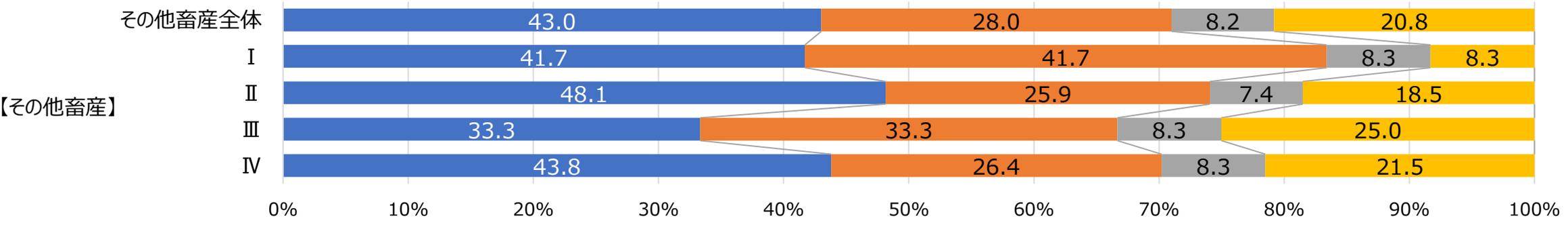
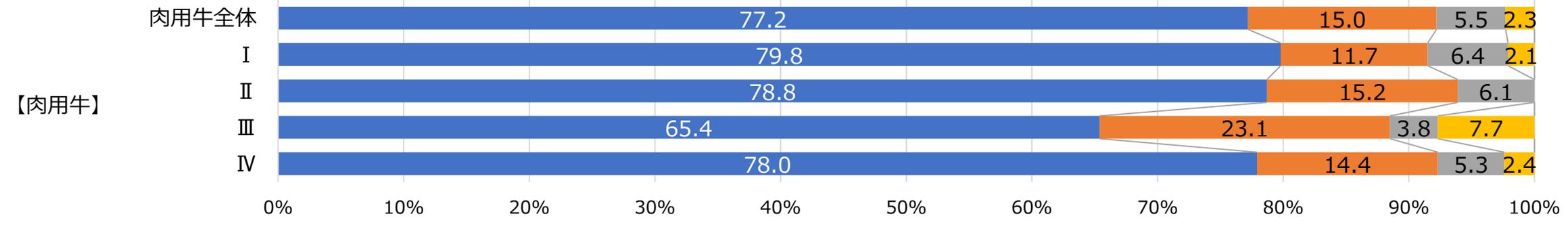
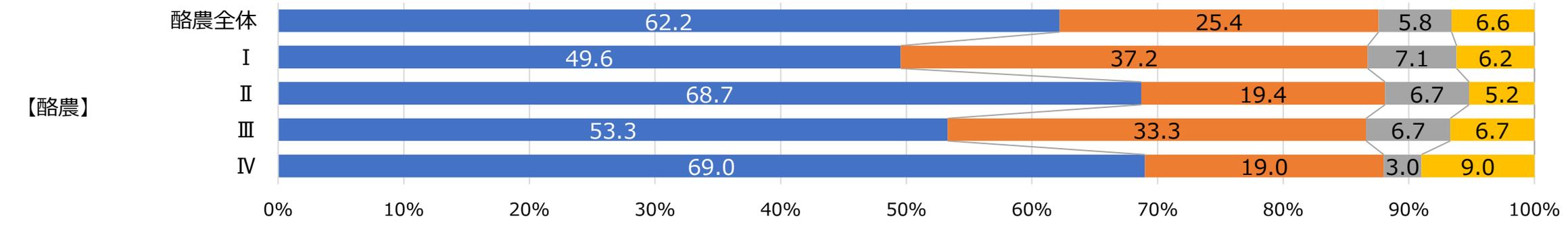
- 畜種の3部門における、グループ I ~ IV ごとの農業経営主年齢別の構成割合は下図のとおり。
- 畜種の3部門全てにおいて、グループ I ~ IV に共通して、60歳未満の割合が40~60%程度となっている。
- 70歳以上の割合をみると、酪農においてはグループ III が最も多く、肉用牛では特に大きな差はなく、その他畜産ではグループ I が最も少なくなっている。



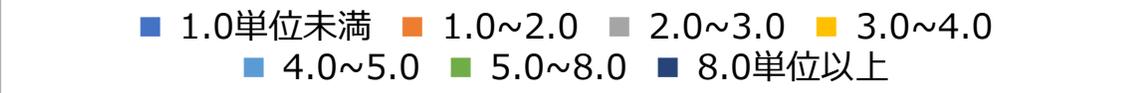
2. 利用者グループの特徴：農業雇用者人数規模別



- 畜種の3部門における、グループⅠ～Ⅳごとの農業雇用者人数規模別の構成割合は下図のとおり。
- 畜種の3部門全てに共通して、農業雇用者なしの経営体の割合はおおむね全体の40%以上を占める。
- 酪農ではグループⅠ、肉用牛及びその他畜産ではグループⅢにおいて、農業雇用者1人以上の経営体の割合が最も高い。

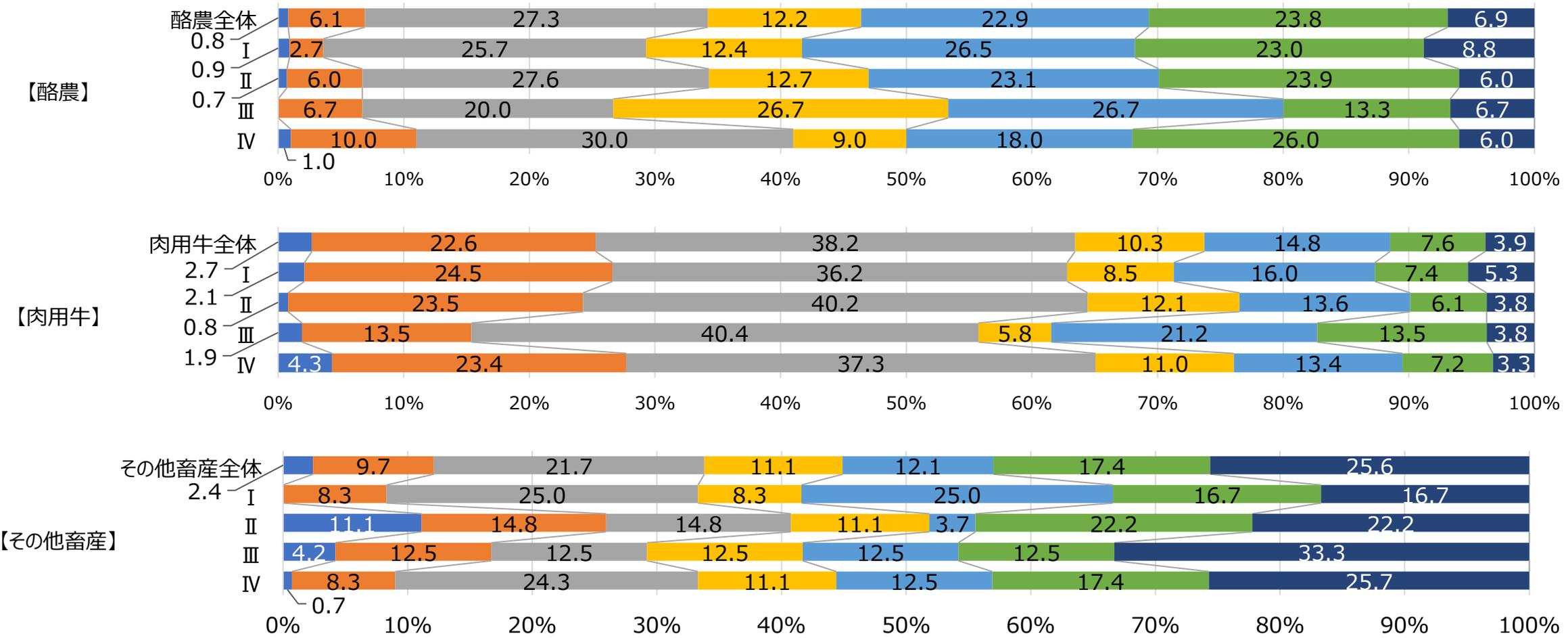


2. 利用者グループの特徴：農業投下労働規模別

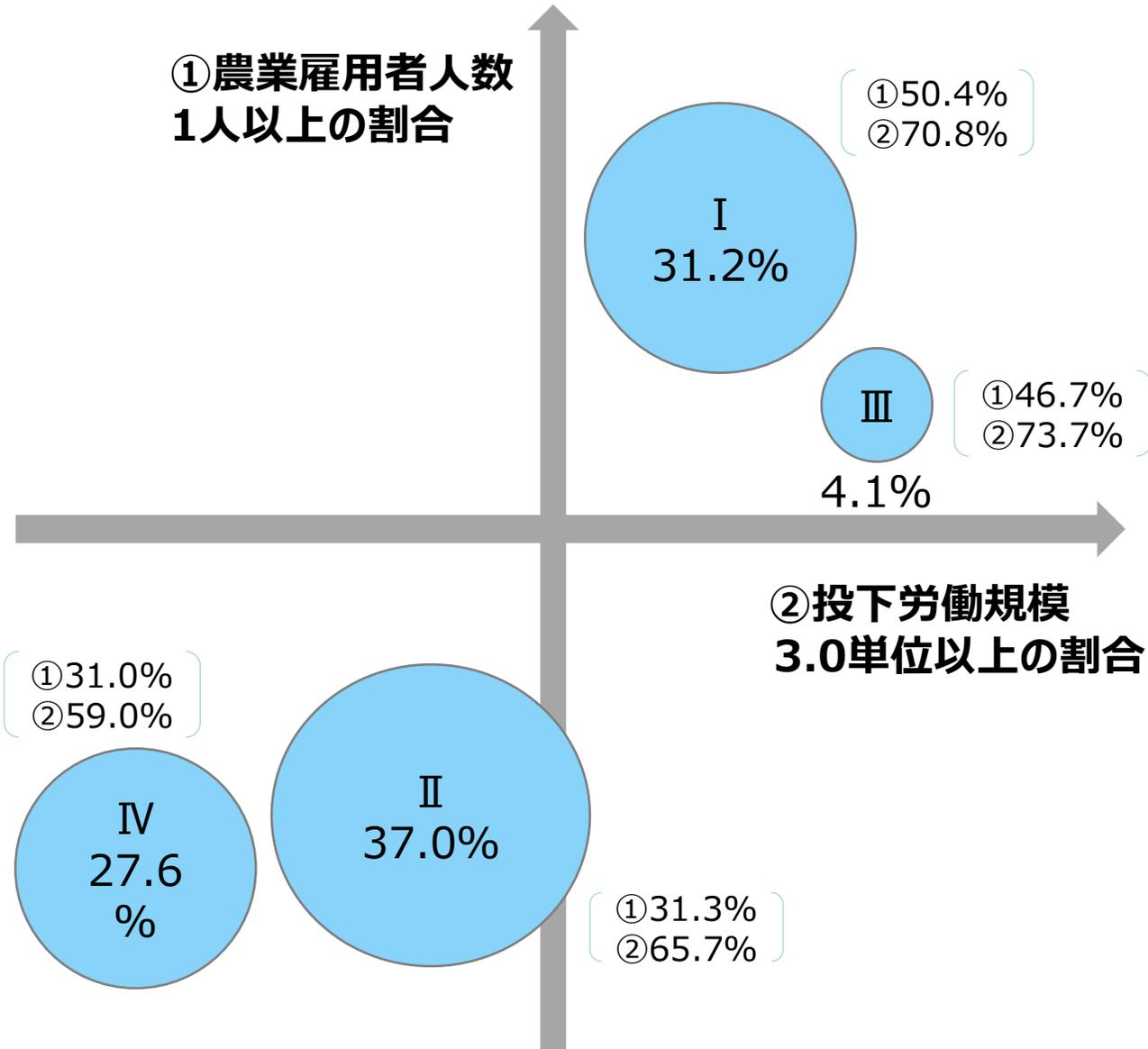


- 畜種の3部門における、グループⅠ～Ⅳごとの農業投下労働規模（※）別の構成割合は下図のとおり。
- 農業投下労働規模3.0単位以上の割合に着目すると、酪農・その他畜産は60～70%程度、肉用牛は30～40%を占める。
- 畜種の3部門全てに共通して、グループⅢにおいて農業投下労働規模3.0単位以上の割合が最も高くなっている。

※：年間農業労働時間1,800時間（1日8時間換算で225日）を1単位の農業労働単位とし、農業経営に投下された総労働日数を225日で除した値により分類。



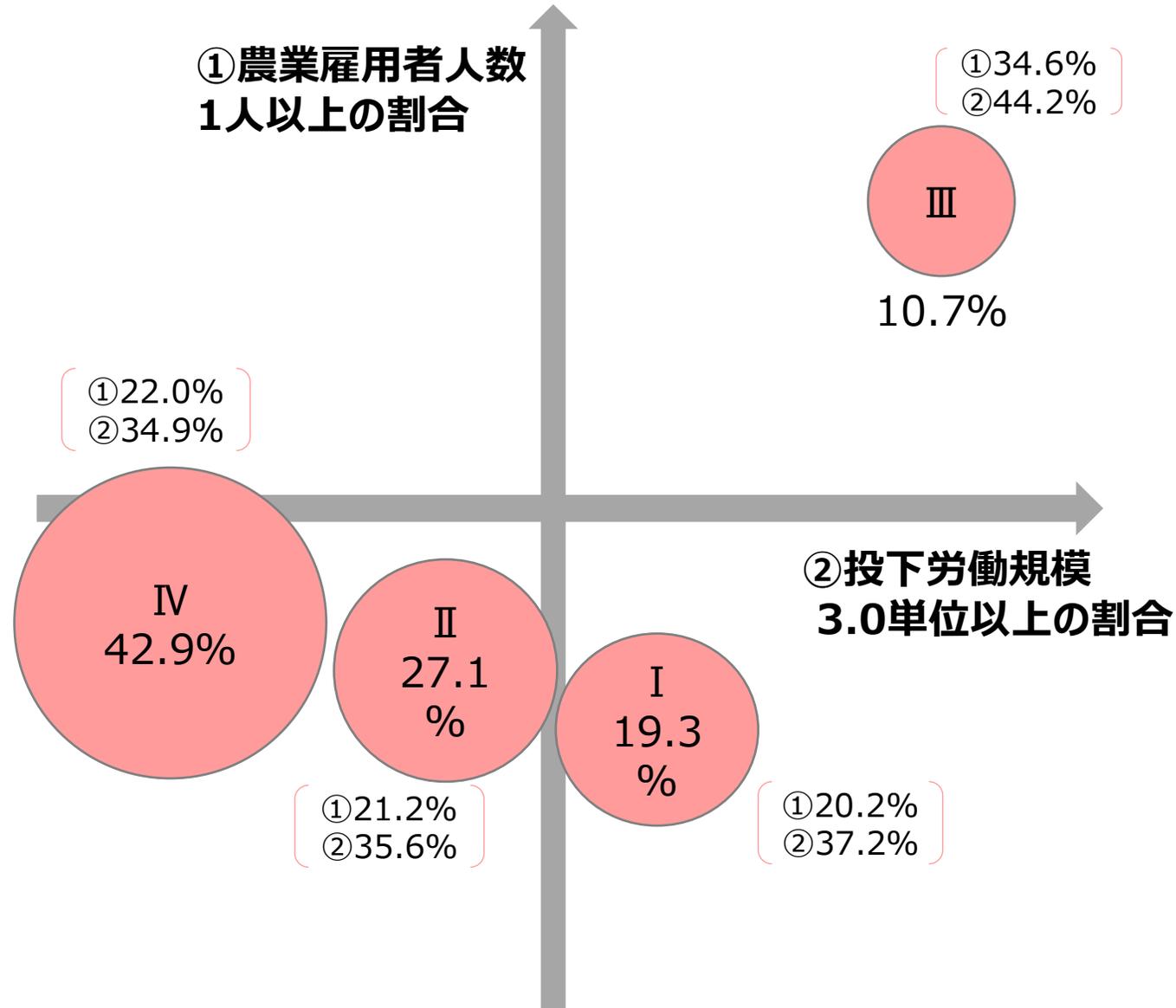
2. 利用者グループの特徴（酪農まとめ）



- 酪農におけるグループ I ~ IV の構成割合（円の大きさ）、各グループの農業雇用者人数1人以上の割合（縦軸）、各グループの投下労働規模3.0単位以上の割合（横軸）の関係性を表したバブルチャートは左図のとおり。
- グループ I 及び III はグループ II 及び IV と比べて、労働コスト（農業雇用者人数1人以上の割合及び投下労働規模3.0単位以上の割合）は比較的高くなっている。
- また、グループ I ~ IV において構成割合に差はないという帰無仮説のもと、以下の分類についてカイ二乗検定及び Fisher の正確検定を行った結果、いずれの分類においても有意な差はみられなかった（有意水準はボンフェローニ補正により $P=0.0017$ を使用）。
 - 個人経営体/団体経営体
 - 販売金額規模5,000万円未満/以上
 - 農業経営主年齢60歳未満/以上
 - 農業雇用者人数なし/1人以上
 - 農業投下労働規模3.0単位未満/以上

※円の数字（%）は酪農における各グループの構成割合を示し、〔 〕内の数字（%）は縦軸（①）及び横軸（②）について各グループで占める割合を示す。

2. 利用者グループの特徴（肉用牛まとめ）



- 肉用牛におけるグループ I ~ IV の構成割合（円の大きさ）、各グループの農業雇用者人数1人以上の割合（縦軸）、各グループの投下労働規模3.0単位以上の割合（横軸）の関係性を表したバブルチャートは左図のとおり。
- 特にグループ III は他のグループと比べて、労働コスト（農業雇用者人数1人以上の割合及び投下労働規模3.0単位以上の割合）は比較的高くなっている。
- また、グループ I ~ IV において構成割合に差はないという帰無仮説のもと、以下の分類についてカイ二乗検定を行った結果、3,000万円未満の割合について、II と III の間に有意差がみられた (b)（有意水準はボンフェローニ補正により $P=0.0017$ を使用）。
 - 個人経営体/団体経営体
 - 販売金額規模3,000万円未満/以上
 - 農業経営主年齢60歳未満/以上
 - 農業雇用者人数なし/1人以上
 - 農業投下労働規模3.0単位未満/以上

※円の数字 (%) は肉用牛における各グループの構成割合を示し、〔 〕内の数字 (%) は縦軸 (①) 及び横軸 (②) について各グループで占める割合を示す。

2. 利用者グループの特徴（その他畜産まとめ）

①農業雇用者人数
1人以上の割合

①58.3%
②66.7%
5.8%

I

III
11.6%
%

①66.7%
②70.3%

②投下労働規模
3.0単位以上の割合

IV
69.6%

II
13.0%
%

①51.9%
②59.3%

①56.3%
②66.7%

- その他畜産におけるグループ I ~ IV の構成割合（円の大きさ）、各グループの農業雇用者人数1人以上の割合（縦軸）、各グループの投下労働規模3.0単位以上の割合（横軸）の関係性を表したバブルチャートは左図のとおり。
- 特にグループ III は他のグループと比べて、労働コスト（農業雇用者人数1人以上の割合及び投下労働規模3.0単位以上の割合）は比較的高くなっている。
- また、グループ I ~ IV において構成割合に差はないという帰無仮説のもと、以下の分類についてカイ二乗検定及び Fisher の正確検定を行った結果、いずれの分類においても有意な差はみられなかった（有意水準はボンフェローニ補正により $P=0.0017$ を使用）。
 - 個人経営体/団体経営体
 - 販売金額規模5,000万円未満/以上
 - 農業経営主年齢60歳未満/以上
 - 農業雇用者人数なし/1人以上
 - 農業投下労働規模3.0単位未満/以上

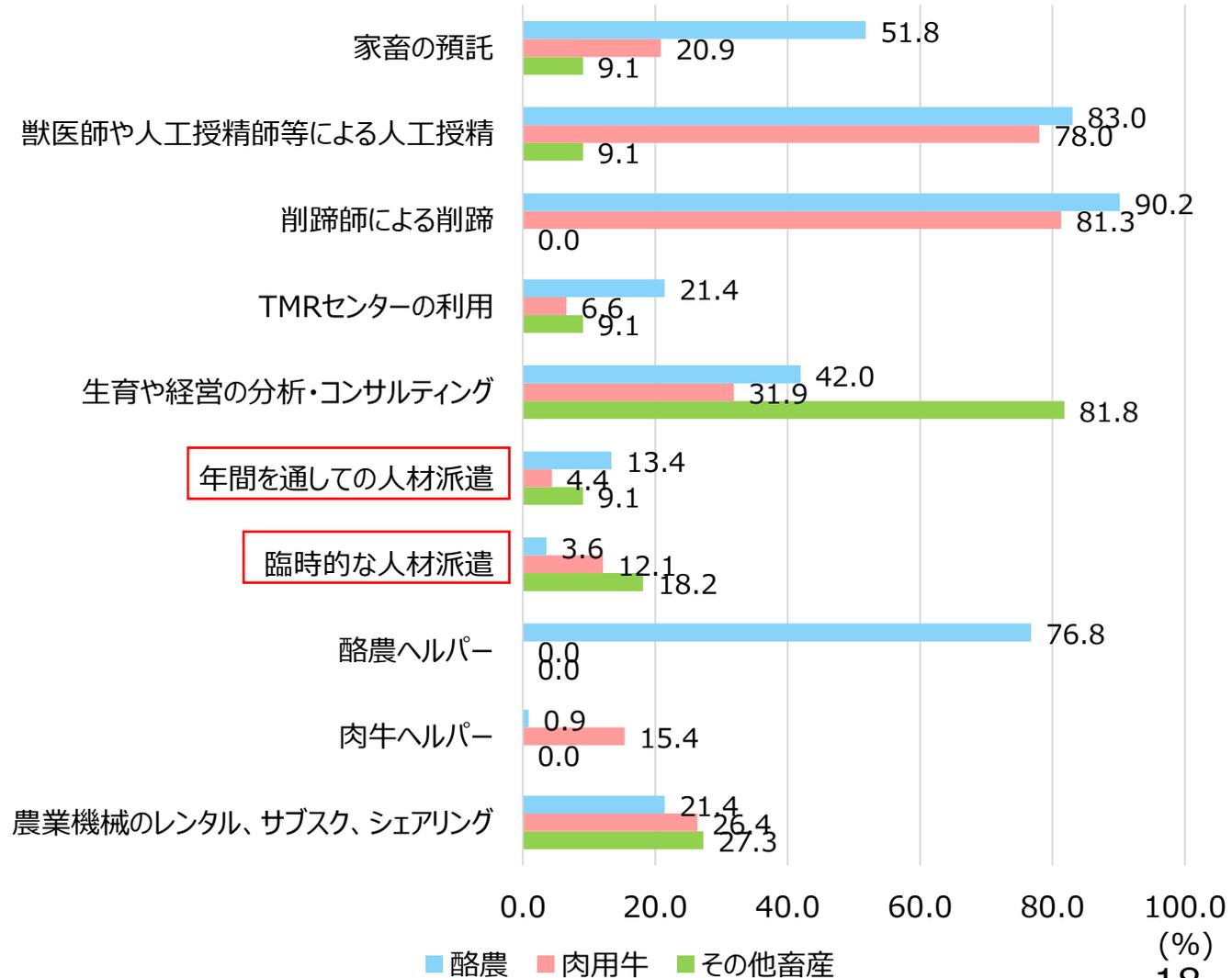
※円の数字（%）はその他畜産における各グループの構成割合を示し、〔 〕内の数字（%）は縦軸（①）及び横軸（②）について各グループで占める割合を示す。

The slide features several large, overlapping geometric shapes in teal, green, and yellow. In the top right, there is a teal triangle pointing down, a green parallelogram, and two yellow diamonds. In the bottom left, there is a teal triangle pointing right, a green triangle pointing down, and a yellow parallelogram.

3. サービスの特徴

3. サービスの特徴（グループ I の現在の利用状況）

- グループ I における個別のサービスの利用状況は右図のとおり。
- 酪農・肉用牛では、「獣医師や人工授精師等による人工授精」や「削蹄師による削蹄」の利用率が最も高かった。
- その他畜産においては、「生育や経営の分析・コンサルティング」の利用率が最も高かった。
- 一方、畜種の3部門全てに共通して「年間を通しての人材派遣」、「臨時的な人材派遣」の利用率が低くなっている。



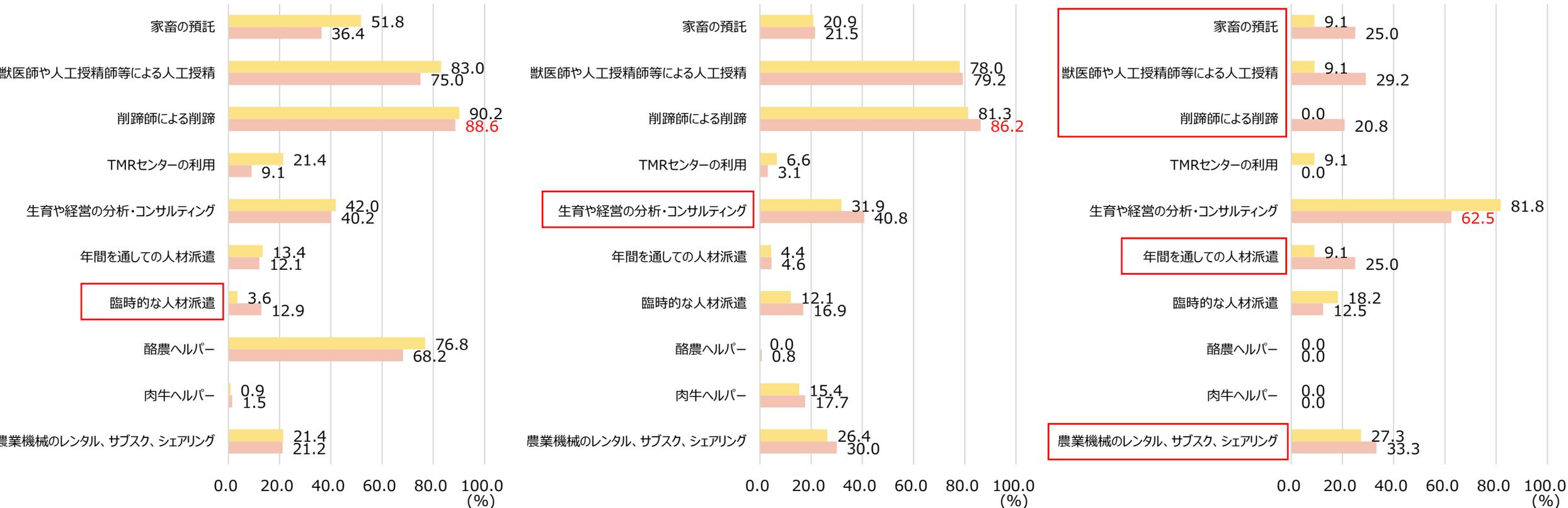
3.サービスの特徴（グループⅡの現在の利用状況）

- グループⅡにおける個別のサービスの利用状況（グループⅠの利用状況と比較）は下図のとおり（ はⅡの回答率がⅠよりも5ポイント以上高いサービス）。
- 酪農は、全体的にⅠよりもⅡの利用率が低いサービスが多いが、「臨時的な人材派遣」のみⅡのほうが利用率が高い。
- 一方、肉用牛は、全体的にⅠよりもⅡの利用率が高いサービスが多く、中でも「生育や経営の分析・コンサルティング」の利用率が約10ポイント高くなっている。
- その他畜産は、「家畜の預託」、「獣医師や人工授精師等による人工授精」、「削蹄師による削蹄」、「年間を通しての人材派遣」、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」において、ⅠよりもⅡのほうが利用率が高い。

【酪農】

【肉用牛】

【その他畜産】



■ グループⅠの現在の利用状況 ■ グループⅡの将来の利用状況

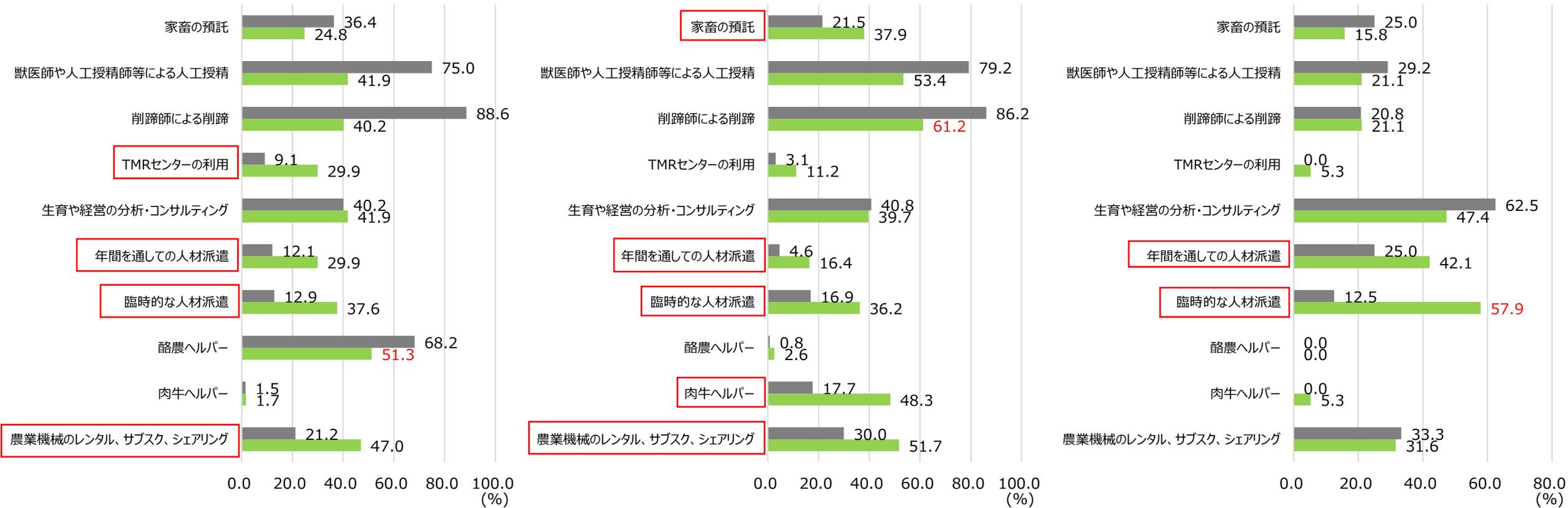
3.サービスの特徴（グループⅡの将来の利用意向）

- グループⅡにおける個別のサービスの将来の利用意向（グループⅡの現在の利用状況と比較）は下図のとおり（ は利用意向の回答率が現状よりも10ポイント以上高いサービス）
- 畜種の3部門全てに共通して、「年間を通しての人材派遣」及び「臨時的な人材派遣」について現状よりも将来の利用意向の回答率が高い。
- 酪農・肉用牛に共通して、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」について現状よりも将来の利用意向の回答率が高い。
- 肉用牛については、「家畜の預託」についても、現状よりも将来の利用意向の回答率が高くなっている。

【酪農】

【肉用牛】

【その他畜産】



■ グループⅡの現在の利用状況 ■ グループⅡの将来の利用意向

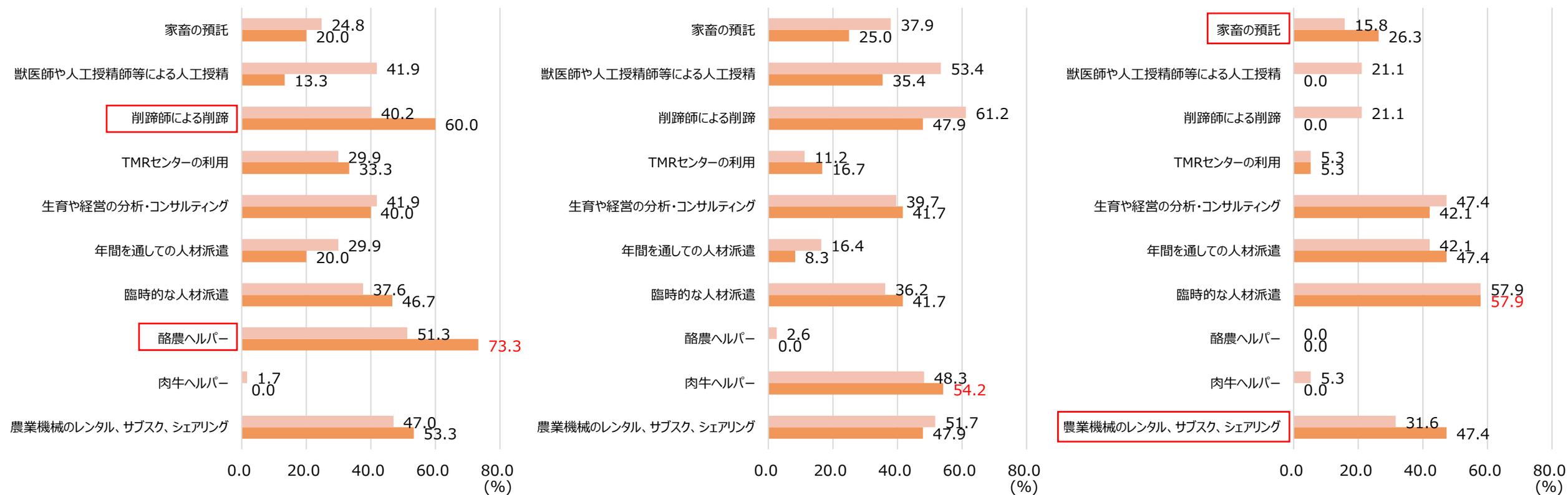
3. サービスの特徴（グループⅢの将来の利用意向）

- グループⅢにおける個別のサービスの将来の利用意向（グループⅡの将来の利用意向と比較）は下図のとおり（□ はⅢの将来の利用意向がⅡよりも10ポイント以上高いサービス）
- 酪農においては、「削蹄師による削蹄」及び「酪農ヘルパー」について、ⅡよりもⅢの将来の利用意向が大きく上回った。
- 肉用牛では、「肉牛ヘルパー」についてのⅢの将来の利用意向が最も高かったが、Ⅱと比較すると大きな差とはならなかった。
- その他畜産において、「家畜の預託」及び「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」について、ⅡよりもⅢの将来の利用意向が大きく上回った。

【酪農】

【肉用牛】

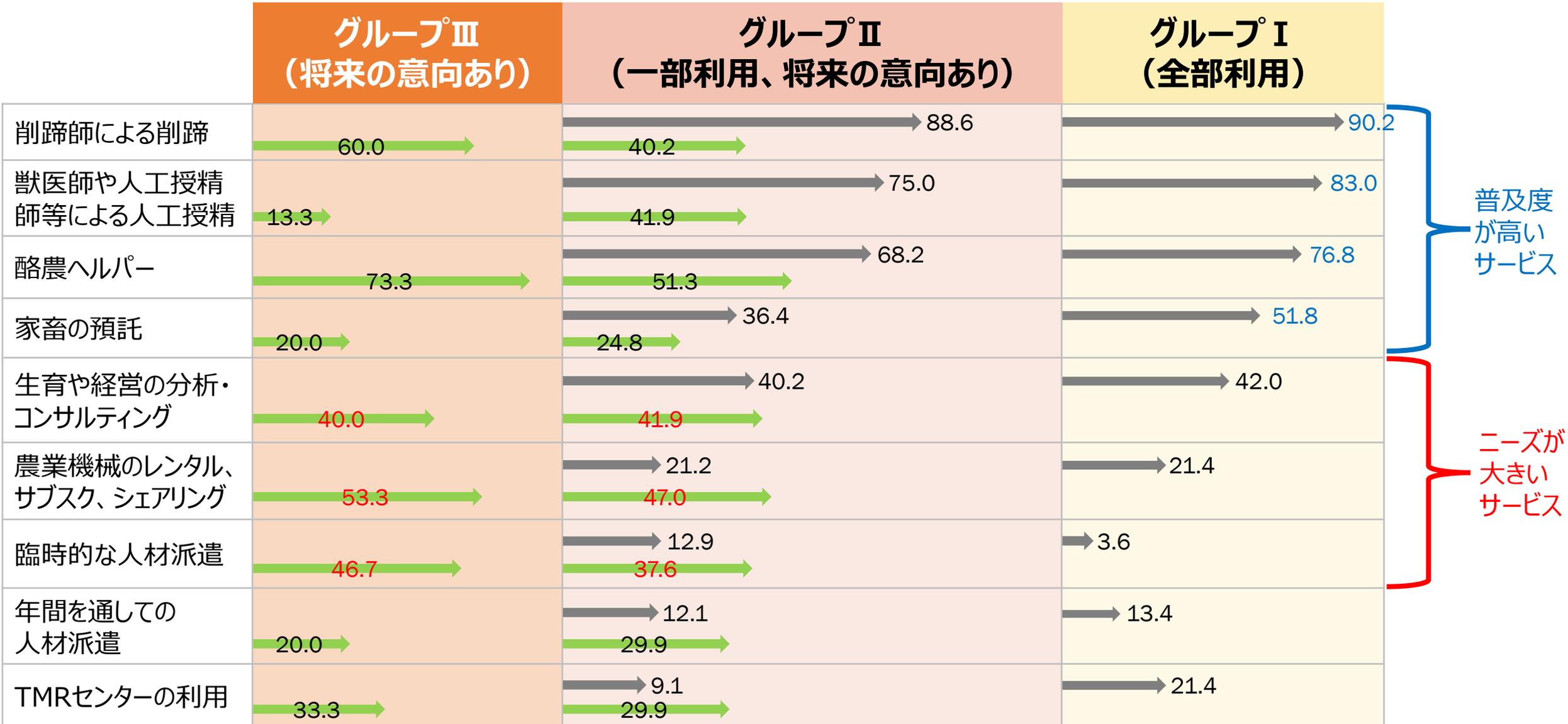
【その他畜産】



■ グループⅡの現在の利用意向 ■ グループⅢの現在の利用意向

3. サービスの特徴（酪農まとめ）

 現在の利用状況 (%)
 将来の利用意向 (%)



↑肉牛ヘルパーは除外

↑数字 (%) はⅢの将来の利用意向より抜粋

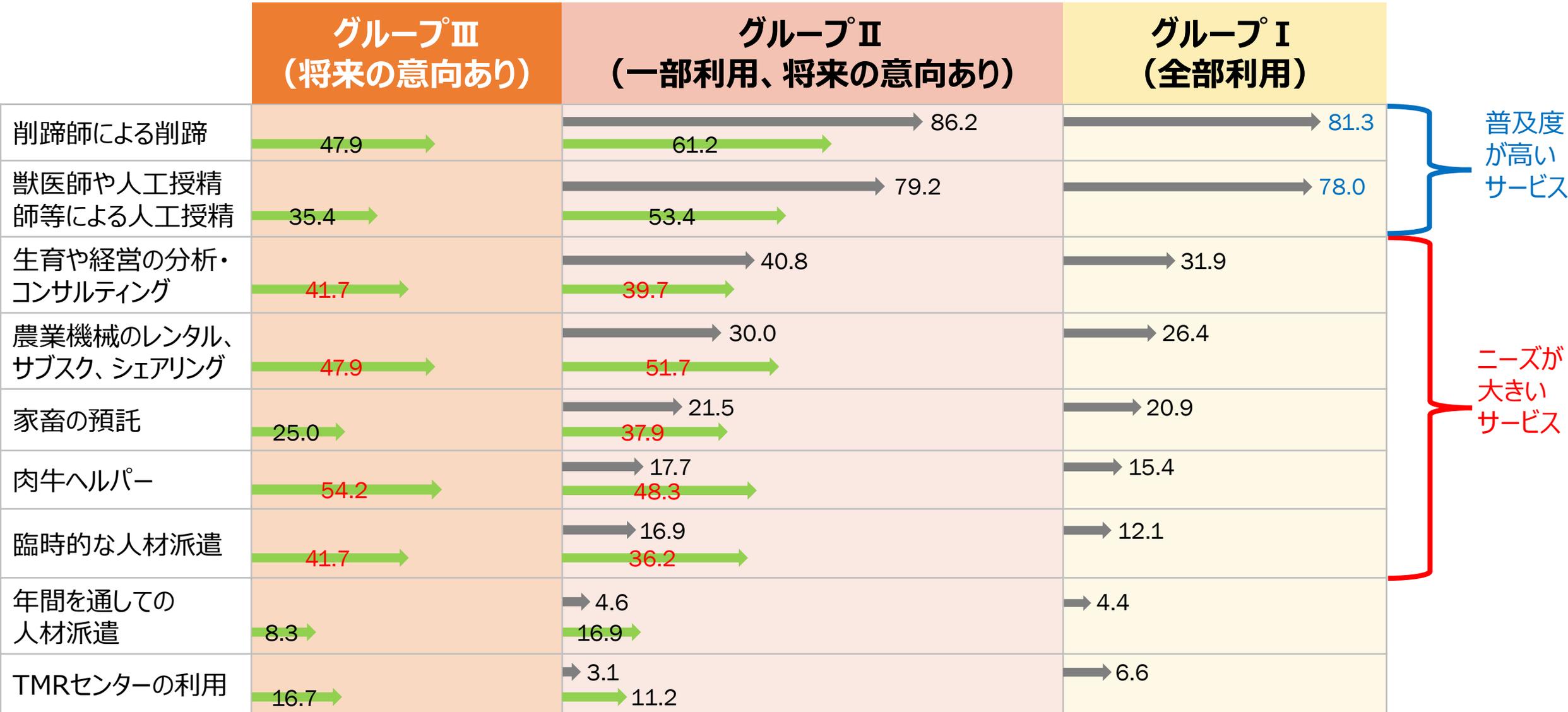
↑数字 (%) はⅡの現在の利用状況及び将来の利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅠの現在の利用状況より抜粋

※①普及度が高いサービス = グループⅠでの回答率が50%以上、②ニーズが大きいサービス = ①以外でグループⅡ又はⅢの将来の利用意向が35%以上のサービスとした。

3. サービスの特徴（肉用牛まとめ）

 現在の利用状況 (%)
 将来の利用意向 (%)



↑酪農ヘルパーは除外

↑数字 (%) はⅢの将来の利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅡの現在の利用状況及び将来の利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅠの現在の利用状況より抜粋

※①普及度が高いサービス = グループⅠでの回答率が50%以上、②ニーズが大きいサービス = ①以外でグループⅡ又はⅢの将来の利用意向が35%以上のサービスとした。

3. サービスの特徴（その他畜産まとめ）

 現在の利用状況 (%)
 将来の利用意向 (%)

	グループⅢ (将来の意向あり)	グループⅡ (一部利用、将来の意向あり)	グループⅠ (全部利用)
生育や経営の分析・コンサルティング	42.1	62.5	81.8
農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング	47.4	33.3	27.3
臨時的な人材派遣	57.9	12.5	18.2
年間を通しての 人材派遣	47.4	25.0	9.1
獣医師や人工授精 師等による人工授精	0.0	29.2	9.1
家畜の預託	26.3	25.0	9.1
削蹄師による削蹄	0.0	20.8	0.0
TMRセンターの利用	5.3	0.0	9.1

普及度
が高い
サービス

ニーズが
大きい
サービス

↑酪農ヘルパー・肉牛ヘルパーは除外

↑数字 (%) はⅢの将来の利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅡの現在の利用状況及び将来の利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅠの現在の利用状況より抜粋

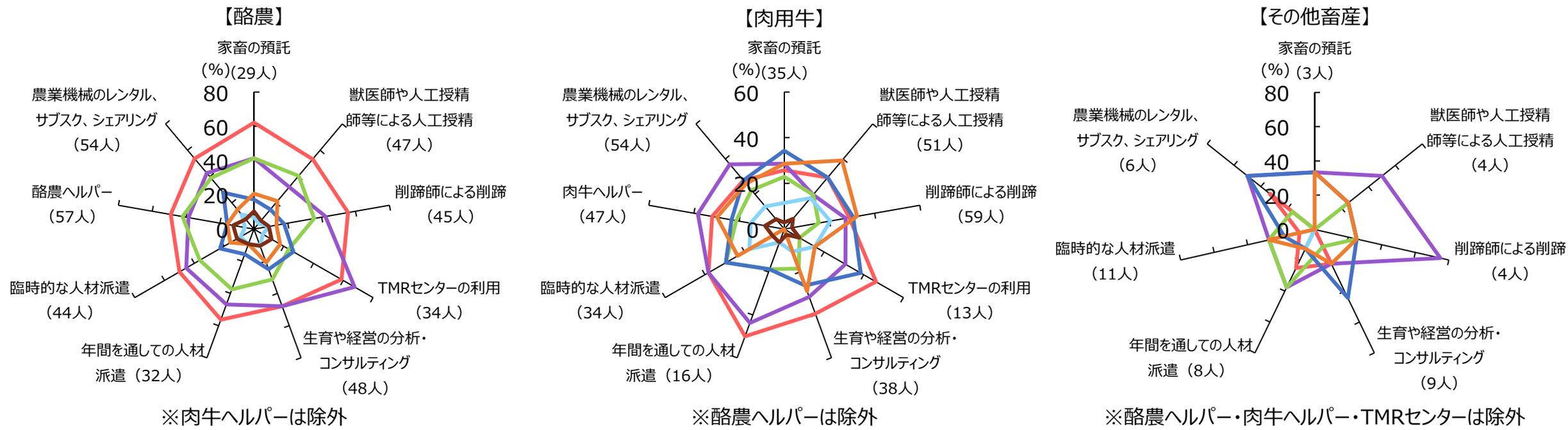
※①普及度が高いサービス = グループⅠでの回答率が50%以上、②ニーズが大きいサービス = ①以外でグループⅡ又はⅢの将来の利用意向が35%以上のサービスとした。

4. アプローチ



4. アプローチ①（グループⅡの利用課題）：畜種部門別

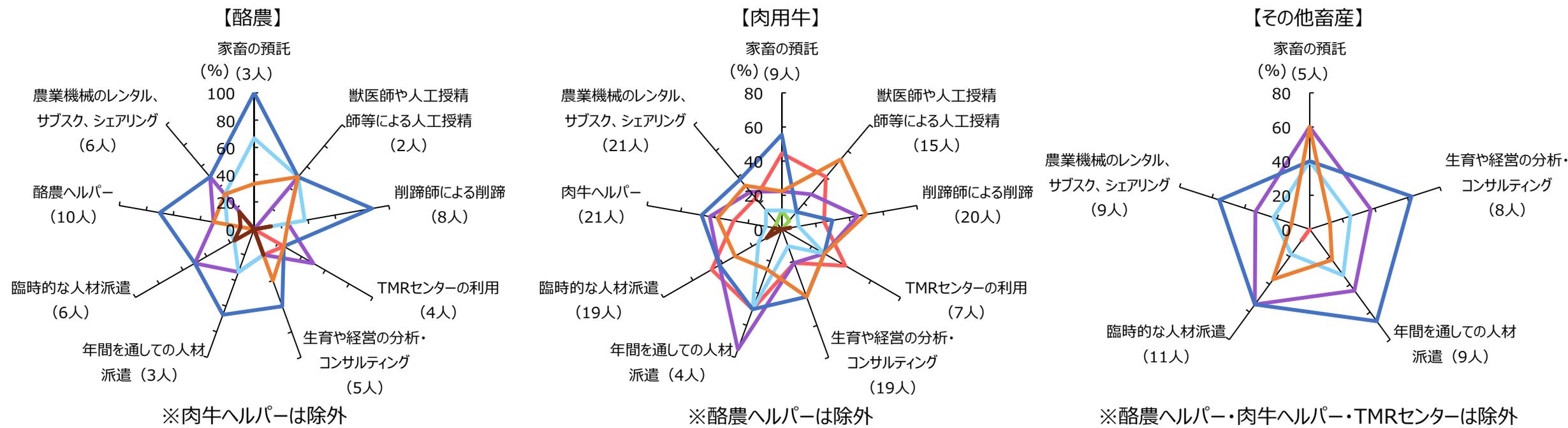
- グループⅡにおける、将来の利用意向のあるサービスと、サービスを利用できていない主な理由の関係性は下図のとおり。
- 酪農では、全てのサービスで「利用料が高いから」が高くなっている。
- 肉用牛では、サービスによって最も回答率の高い理由が異なる傾向があり、「生育や経営の分析・コンサルティング」では『利用料が高いから』が最も多く、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」では「希望する作業の農業支援サービスが見つからないから」が最も高い。
- その他畜産は、回答者の人数が少ないものの、「希望する作業の農業支援サービスが見つからないから」の回答率が高いサービスが多くなっている。



※サービス内容及び利用できていない理由が共に複数回答のため、具体的なサービスに対して理由は必ずしも一致しない。

4. アプローチ②（グループⅢの利用課題）：畜種部門別

- グループⅢにおける、将来の利用意向のあるサービスと、サービスを利用できていない主な理由の関係性は下図のとおり。
- 酪農は回答人数が少ないものの、「TMRセンターの利用」以外の全てのサービスで「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」が最も多い。
- 肉用牛は「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」「今までは農業支援サービスを利用する必要性を感じなかったから」と回答する割合が高い一方で、「年間を通しての人材派遣」では「希望する作業の農業支援サービスが見つからないから」が多い。
- その他畜産は回答人数が少ないものの、「家畜の預託」以外の全てのサービスで「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」と回答した者が最も多くなっている。



— 利用料が高いから
 — 希望する作業の農業支援サービスが見つからないから
 — 希望する日時に予約が取れないから
 — 手続きに手間がかかりそうだから
— そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない
 — 今までは農業支援サービスを利用する必要性を感じなかったから
 — その他

※サービス内容及び利用できていない理由が共に複数回答のため、具体的なサービスに対して理由は必ずしも一致しない。

4. アプローチ③（グループⅡの親和性の高いサービス）：畜種部門別

- グループⅡにおける、現在利用しているサービスと、将来の利用意向のあるサービスの関係性は下図のとおり。
- 酪農では、現在利用しているサービスにかかわらず「酪農ヘルパー(⑧)」「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング(⑩)」の将来の利用意向が高い。また、現在「臨時的な人材派遣(⑦)」を利用している者は他のサービスの将来の利用意向が全体的に高い。また、「TMRセンター(④)」利用している者は「年間を通しての人材派遣(⑥)」「臨時的な人材派遣(⑦)」を除き、他サービスへの将来の利用意向が全体的に高い。
- 肉用牛では既に普及度が高い「人工授精(②)」や「削蹄(③)」に加えて、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング(⑩)」の将来の利用意向の回答率が高い。
- その他畜産では、回答者は少ないものの、「生育や経営の分析・コンサルティング(⑤)」「年間を通しての人材派遣(⑥)」「臨時的な人材派遣(⑦)」「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング(⑩)」への将来の利用意向が高くなっている。

【酪農】

		問7 (将来の利用意向)									
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
問3 (現在の利用状況)	① (44人)	43.2%	38.6%	40.9%	40.9%	50.0%	27.3%	47.7%	50.0%	2.3%	50.0%
	② (89人)	27.0%	44.9%	42.7%	28.1%	38.2%	31.5%	38.2%	52.8%	1.1%	46.1%
	③ (103人)	26.2%	39.8%	42.7%	31.1%	41.7%	29.1%	38.8%	53.4%	1.0%	46.6%
	④ (11人)	54.5%	54.5%	63.6%	54.5%	72.7%	27.3%	36.4%	54.5%	-	54.5%
	⑤ (46人)	39.1%	45.7%	43.5%	30.4%	63.0%	23.9%	41.3%	56.5%	-	63.0%
	⑥ (15人)	33.3%	33.3%	33.3%	40.0%	26.7%	60.0%	13.3%	46.7%	-	40.0%
	⑦ (15人)	53.3%	60.0%	66.7%	46.7%	60.0%	46.7%	73.3%	73.3%	6.7%	66.7%
	⑧ (79人)	27.8%	41.8%	43.0%	27.8%	43.0%	26.6%	40.5%	57.0%	1.3%	48.1%
	⑨ (2人)	-	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
	⑩ (24人)	37.5%	45.8%	41.7%	29.2%	50.0%	41.7%	41.7%	58.3%	0.0%	83.3%

【肉用牛】

		問7 (将来の利用意向)									
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
問3 (現在の利用状況)	① (26人)	65.4%	61.5%	53.8%	7.7%	57.7%	23.1%	46.2%	3.8%	46.2%	46.2%
	② (93人)	38.7%	64.5%	65.6%	12.9%	41.9%	16.1%	37.6%	3.2%	47.3%	53.8%
	③ (100人)	39.0%	58.0%	68.0%	13.0%	40.0%	15.0%	35.0%	3.0%	50.0%	52.0%
	④ (3人)	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%	-	100.0%	66.7%
	⑤ (46人)	34.8%	54.3%	65.2%	19.6%	71.7%	28.3%	43.5%	-	34.8%	63.0%
	⑥ (5人)	-	40.0%	40.0%	-	80.0%	60.0%	40.0%	-	20.0%	60.0%
	⑦ (21人)	47.6%	42.9%	52.4%	14.3%	42.9%	19.0%	71.4%	-	47.6%	52.4%
	⑧ (1人)	100.0%	100.0%	100.0%	-	100.0%	-	-	100.0%	-	100.0%
	⑨ (20人)	30.0%	65.0%	70.0%	15.0%	40.0%	15.0%	45.0%	-	55.0%	55.0%
	⑩ (37人)	45.9%	56.8%	64.9%	8.1%	45.9%	18.9%	45.9%	2.7%	40.5%	67.6%

【その他畜産】

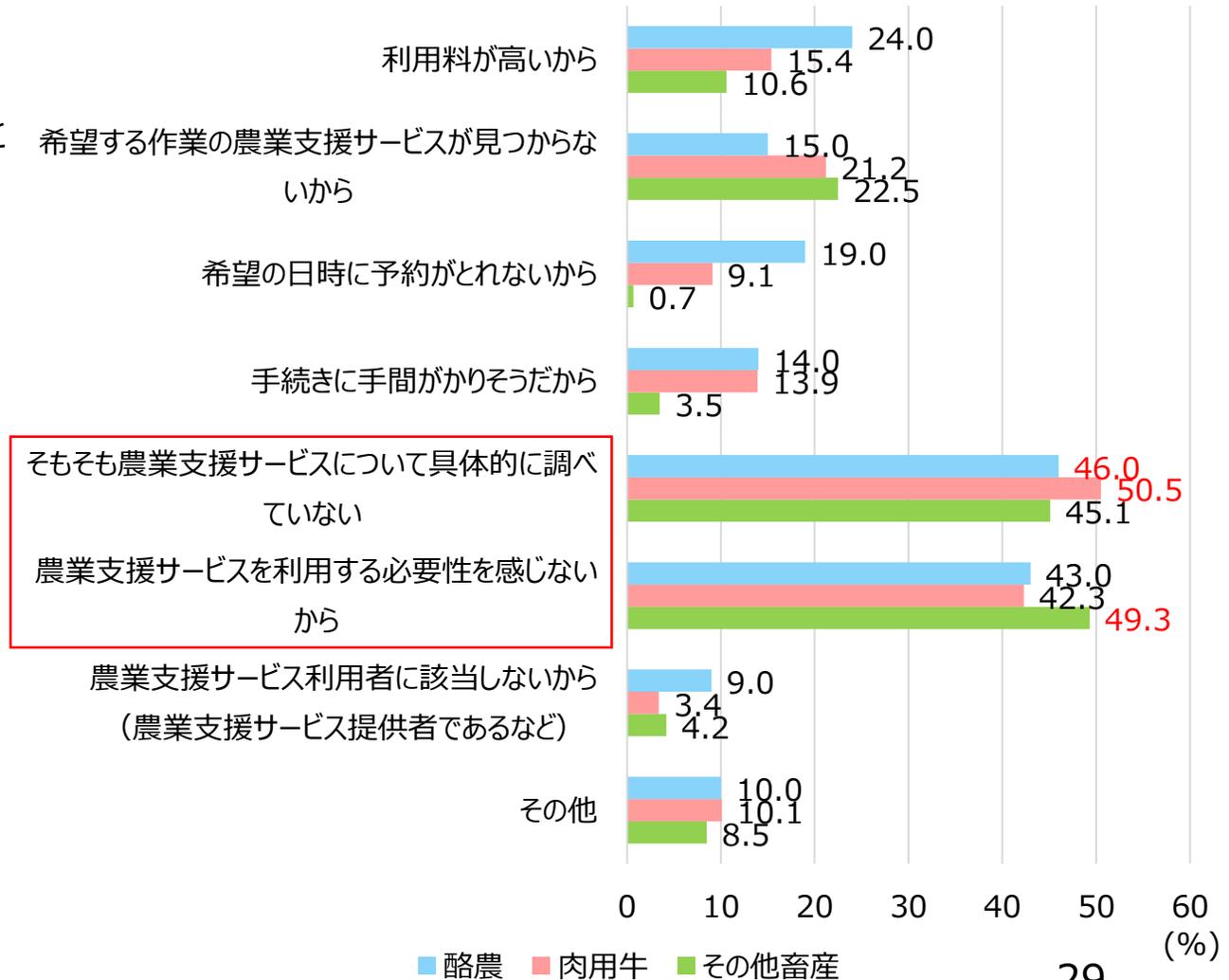
		問7 (将来の利用意向)									
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
問3 (現在の利用状況)	① (5人)	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	-	80.0%	-	-	20.0%
	② (7人)	-	57.1%	57.1%	14.3%	71.4%	57.1%	57.1%	-	14.3%	57.1%
	③ (5人)	-	60.0%	80.0%	20.0%	60.0%	40.0%	40.0%	-	20.0%	60.0%
	④ (0人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑤ (10人)	20.0%	20.0%	10.0%	-	70.0%	50.0%	60.0%	-	10.0%	40.0%
	⑥ (6人)	16.7%	33.3%	16.7%	-	50.0%	66.7%	66.7%	-	16.7%	33.3%
	⑦ (3人)	33.3%	-	-	-	66.7%	-	66.7%	-	-	66.7%
	⑧ (0人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑨ (0人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑩ (7人)	28.6%	14.3%	14.3%	-	71.4%	42.9%	71.4%	-	14.3%	71.4%

- ① 家畜の預託 ② 獣医師や人工授精師等による人工授精
- ③ 削蹄師による削蹄 ④ TMRセンターの利用
- ⑤ 生育や経営の分析・コンサルティング
- ⑥ 年間を通しての人材派遣 ⑦ 臨時的な人材派遣 ⑧ 酪農ヘルパー
- ⑨ 肉牛ヘルパー ⑩ 農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング

※現在利用しているサービスの回答者を基準（母数）に、将来の利用意向があるサービス（分子）を百分率で計算した。両者とも複数回答のため、それぞれの項目の計は100%とならない。

4. アプローチ④（グループⅣの利用課題）

- グループⅣにおける、将来の利用意向がない理由は右図のとおり。
- 酪農・肉用牛部門においては「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」が最も多く、その他畜産においては「農業支援サービスを利用する必要性を感じないから」が最も高くなっている。



4. アプローチ（酪農まとめ）

	現在の 利用状況	将来の 利用意向	アプローチ
Ⅱ	△ (一部利用)	○	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在的ニーズの高い「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」については、現在利用中のサービスと併せてアピールを行えば、利用者のニーズを惹きつけられる可能性大 ・現在「臨時的な人材派遣」を利用している者に対しては、他のサービスも積極的に活用をすすめると、ニーズとマッチする可能性大
Ⅲ	×	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど全てのサービスについて、ニーズを育てていくためのPR活動が必要
Ⅳ	×	×	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの存在を認知してもらう機会の増加 ・まずは利用意向を持ってもらえるようなサービス使用のメリットを周知

4. アプローチ（肉用牛まとめ）

	現在の 利用状況	将来の 利用意向	アプローチ
Ⅱ	△ (一部利用)	○	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスによってアプローチを変える必要。たとえば、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」についてはサービス内容の多様化が求められる ・潜在的ニーズの高い「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」については、現在利用中のサービスと併せてアピールを行えば、利用者のニーズを惹きつけられる可能性大
Ⅲ	×	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「年間を通しての人材派遣」については、サービス内容の多様化が求められる ・その他のサービスについては、そのニーズを更に育てていくためのPR活動が必要
Ⅳ	×	×	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの存在を認知してもらう機会の増加 ・まずは利用意向を持ってもらえるようなサービス使用のメリットを周知

4. アプローチ（その他畜産まとめ）

	現在の 利用状況	将来の 利用意向	アプローチ
Ⅱ	△ (一部利用)	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどのサービスにおいて、利用者のニーズに応じた内容の多様化が求められている ・現在何らかの支援サービスを利用している者に対しては、「生育や経営の分析・コンサルティング」「年間を通しての人材派遣」「臨時的な人材派遣」「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」の活用を促すことでニーズを満たす可能性大
Ⅲ	×	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど全てのサービスについて、ニーズを育てていくためのPR活動が必要
Ⅳ	×	×	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの存在を認知してもらう機会の増加 ・まずは利用意向を持ってもらえるようなサービス使用のメリットを周知

5. まとめ



5. まとめ

- 今回の分析により、農業支援サービスの利用状況は、そのサービスの内容や利用者がどれだけサービスを受け入れているか（サービス受容段階）により異なっていることが分かった。
- 今後農業支援サービスを普及させていくためには、利用者のニーズをきめ細やかに捉え、利用者のサービス受容段階に応じた適切なアプローチを行っていくことが重要である。
- 一般的に、商品やサービスは、市場に投入されてから消えていくまで複数の段階を経ると言われており（プロダクトライフサイクル）、農業支援サービスにおいても同様に、マーケティング戦略を練った上で、認知度の向上、資金調達、競合他社との差別化、販売チャンネルの多様化などの施策を打ち出す必要があると考えられる。